



千枚限定の和紙ポスター

新井満

紙の思い出といえば、なんといっても冬季五輪である。といってもバンクーバーではない。長野の方なのだが……。第18回冬季五輪大会が日本の長野で開催されたのは、一九九八年二月のことであった。開会式の総合プロデューサー兼演出監督は、劇団四季の浅利慶太さん。音楽監督は世界的な指揮者である小澤征爾さん。そして浅利さんのご依頼でイメージ監督を私がつとめることになった。

「あのう……、イメージ監督って、どんなことをしたらよいのですか……？」

私が尋ねると、浅利さんは、「自分で考えてください。」

とそっけない。まいったなあと思いつつ、まずは開会式のコンセプトから考えることにした。長野の二年前に開催され

たのは、アトランタ五輪である。この開会式を視察した。お金を湯水のようにつかい、何千人もの役者を動員した豪華絢爛な娯楽ショー的な開会式を見物しながら、私はしみじみ思った。「こういう式典にだけは、絶対にしないようにしよう……」

開会式で一番大切なことは何か？ 選手が入場し、宣誓すること。それに尽きるのだ。帰国してから考えた。「五輪の原点にもどろう！」。そのため開会式は、次の3Sで展開しよう。即ち、①シンプル Simple（簡素で）②ソレム Solemn（厳粛で）③スピリチュアル Spiritual（魂のこもった）開会式にしようではないか！

さらに考えた。この3Sをポスターにできないだろうか……。ところが組織委員会に提案したら、あっさり却下されてしまった。「開会式一日だけの公式ポスターなんて、全く前例がありませんからねえ……」

前例がないと言われて、私の心はかえって奮い立った。「とっとうことはだ。もし実現したら五輪史上初の公式ポスターになるわけだな……」ささやかながら新しい歴史を作ることになる。愉快ではないか。粘り強く説得を重ねた結果、ついに許可



がおりた。

「さて、どんなポスターにしよう……？」 3Sの心は、禅である。禅といえば、雪舟である。雪舟といえば、国宝でもある代表作「秋冬山水図・冬景」であろう。この水墨画こそ、長野冬季五輪開会式の図柄にぴったりではないか、と考えたのだった。

ポスターの制作は鈴木八朗さんにお願いした。ディスクカバー・ジャパンのアートディレクションで一世を風靡した伝説のデザイナーである。鈴木さんは不純物ゼロの手漉き和紙に雪舟を刷り、制作者のサインと千番までの通し番号を入れた。ナンバー1のポスターはサマランチ会長に贈られ、橋本首相やクリントン大統領、そしてシラク大統領にも贈られた。大喜びしたシラク大統領は、「これ、もう一枚だけだけませんか……」と言ったとか言わないとか……。

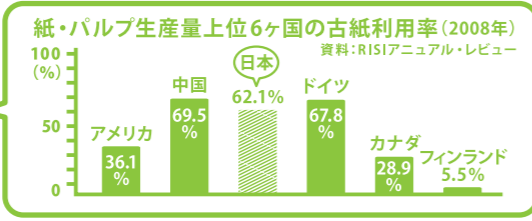
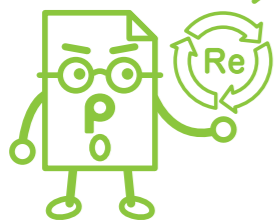
全世界に千枚だけ存在する、長野冬季五輪・和紙ポスターのお話でした。

新井満(あらいまん) ●1946年、新潟県生まれ。上智大学法学部卒業。作家、作詞作曲家、写真家、環境映像プロデューサーなど、多方面で活躍。88年、「尋ね人の時間」で芥川賞を受賞。03年に発表した写真詩集「千の風になつて」が話題になり、その詩に曲をつけた「千の風になつて」がロングセラー、レコード大賞作曲賞も受賞。著書に自由訳「老子」「自由訳 十牛図」「良寛さんの愛語」など多数。

ペーパー君のつ・ぶ・や・き 活動

みんなのおかげで、紙リサイクル先進国。

みんなの分別への協力、紙づくりの技術向上で、より効率よく古紙が使えるように。現在、原料全体の約60%に古紙が利用されています。中でも段ボールなどの古紙利用率は、なんと90%以上。これらの数字は世界でもトップクラスなんです。日本が世界に誇れることが、こんなところにもあったんですね。



紙のことをもっと伝えたい。詳しくは、[「ペーパー君のつ・ぶ・や・き」WEBサイト](http://kamitsubu.com/)をご覧ください。

◆次回は7月1日号、篠田節子さんです。

提供 ● 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>

photo : Shiro Miyake